芝浦と場発足までの変遷と役割

芝浦と場が、この地に落ち着くまでには、下図に示すようにさまざまな「と場」が「廃止や移転」をくり返してきた歴史がありました。

「と場」が何度も「廃止や移転」を余儀なくされた理由のひとつに「刑務所や火葬場より、心を痛めさせる と場 の建物を見て暮らすことに耐えられない。」「物心両面の実害が甚大である。」など、差別的なケガレ意識や偏見による、周辺住民の「と場追い出し」の声があった事実を忘れてはいけません。

繰り返された「と場」の「廃止と移転」

- 白 里（今里）（慶応３年）
- 本 芝 二 丁 目（明治元年）
- 築 地（官営）（明治２年）
- 芝 七 曲
- 神田護持ケ原（明治３年）
- 麻 布 本 村 町
- 千 住
- 三 田 小 山 町（明治４年）
- 浅 草 千 束 町（明治６年）
- 芝 浜（明治16年）
- 白 金 共 同
- 三 河 島（明治20年）
- 三 ノ 輪
- 大 崎（明治26年）
- 尾 久 → 廃 業
- 千 住（大正２年）
- 深 川（明治40年）→ 廃 業
- 寺 島（明治41年）
- 野 方（昭和２年）
- 玉 川（昭和３年）

屠場取締規則（明治６年）

東京市立芝浦と場（昭和11年開業）

東京都中央卸売市場　食肉市場（芝浦と場　2002年10月現在）

私たちが健康でいられるのは…。

生産者から預かった牛や豚を近代的な工場「と場」の中で肉と皮等に処理し、食肉市場を経て私たちの食卓にのぼります。

品川駅東口にある芝浦と場（東京都中央卸売市場　食肉市場）は、発足当時、葦の茂る埋立地に開設されましたが、街の発展、食肉消費量の増大と共に現在、日本一の処理生産量を誇る「と場」となっています。

港・品川・目黒・大田区同和対策四区連絡会